

### 実習3 補助具1 視覚補助具・拡大読書器

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局

福岡視力障害センター支援課 山田 信也

拡大読書器はもとより光学補助具、非光学補助具の活用では、当事者自らが視野をはじめとする視覚機能の意識化、自覚的な理解が大切です。効率的かつ長時間の使用にあたっては、何よりも自らの視覚機能に対する理解度がその質を決定づけると言っても過言ではありません。

今回の実習では、非光学補助具全般にわたる、視野、視力の状態を含めた傾向と対策について明瞭・簡潔にお話ししたいと考えています。

「拡大読書器」の実習では、主に据置型の拡大読書器の持つ優れた機能やその可能性と制約(限界)について言及し、読字、書字の際のコツ、様々な場面での活用法について具体的に提示します。また、「タイポスコープ」やタブレット端末の併用方法等知っておくと便利な智慧を提示します。

この実習の読字、書字等の体験をとおして、その効果について共に学び、病院等に非光学補助具が準備されている場合、どのタイミングで紹介するか、トレーニングする場合には、どのくらいの期間で、どの程度の量を行うのかも、事例に合わせてお話しすることとします。